研究機関番号 AC

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テ	-ーマ 和文) AB	容器包装廃棄物の減量に向けての政策手段の実効性に関する評価研究 - 日本・韓国・ドイツの拡大生産者責任の実施過程を中心として-							
研究テーマ (欧文) AZ		Research on the effectiveness of the policy means for lessening the container and packing waste—Foucing on EPR in Germany, South Korea and Japan—							
研究代表名	ከタカナ cc	姓)シン	名) ドン アイ	研究期間 в	2004 ~ 2005 年				
	漢字 CB	申	東 愛	報告年度 YR	2007 年				
	□-マ字 cz	Shin	Dong-Ae	研究機関名	北九州市立大学				
研究代表者 cp 所属機関・職名		北九州市立大学 法学部 准教授							

概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)

ドイツと韓国では容器包装廃棄物の減量が進んでいるのに対して、日本では家庭外(レジャー、サービス業・小売店)での容器包装廃棄物が増大し、容器包装の生産量・消費も増加しており、容器包装リサイクルシステムによる廃棄物の減量効果は20%程度に止まっている。

このような違いは、「①生産者責任をどこ(生産、回収、処理段階)まで拡大しているか、②関係者に如何なる責任を課しているか、③リサイクルシステムの対象を廃棄物のどの排出源(家庭排出、事業系特にサービス・小売店排出)に設計しているか、④どの容器包装材を責任の対象としているか、⑤複数の政策手段(法的規制手段、経済的手段、契約・自律的協定)の組み合わせ方」、による。

以上の問題意識から、本研究では、政策手段の比較分析と、優先順位について検討した。また、容器包装廃棄物の特定排出源や回収量に限定するのではなく、容器包装の生産量(事業者の容器包装利用量)に基づく拡大生産者責任の適用可能性と使い捨て容器の減量効果について分析した。

ドイツでは、容器包装の責任が生産者から消費者に規定されており、DSD (Dual System Deutschland) が生産者の代わりに容器包装の回収、処理を行ってきたため、容器包装の回収、処理に関わる費用や責任が生産者に反映され、その減量に結びついた。韓国は、容器包装の回収責任が日本と同様に、自治体にもある。しかし、韓国では、容器包装材が有償で取引される社会経済的要因から実際の自治体の回収費用が少なくなることと、韓国の住居構造(アパート等の集団住居形態)による回収体系が日本のそれと異なるものであった。また、韓国では、容器包装の排出・リサイクル量が容器包装に対する直接規制、企業との自律協定等によってその変化を見せていた。これに対して、日本では、生産者、自治体、消費者の役割構造において、自治体の責任が多く、しかも、容器包装の生産量、素材別・排出別の容器包装の減量手段が不明確であるため、廃棄物発生に伴う責任が問えない構造になっていた。

また、これらの実施過程をみると、各国の消費文化、社会経済的条件(資源の流れと量、回収システムにおける容器包装材の経済的価値と他産業とのリンク、回収作業の職業水準等)、容器包装生産者の政治的力、環境に対する社会的合意、消費者への説得、消費者の減量動機と行為、減量費用の支払い構造、専門家や NPO のモニタリング力と実施過程への参加可能性なども重要であることが分かった(現地の聞き取り調査等による実証)。

キーワード FA	拡大生 (EPR)	政策手段と実効性					素材別・排出別・機能 別の容器包装分類								
(以下は記入しないでください。)															
助成財団コード TA					研究課題番	号 AA									

シート番号

発表文献(この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。)									
雑誌	論文標題GB								
	著者名 GA		雑誌名 gc						
	ページ GF	~	発行年 GE					巻号 GD	
雑誌	論文標題GB								
	著者名 GA		雑誌名 GC						
	ページ GF	~	発行年 GE					巻号 GD	
雑誌	論文標題GB								
	著者名 GA		雑誌名 GC						
	ページ GF	~	発行年 GE					巻号 GD	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 нв		発行年 HD					総ページ HE	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 нв		発行年 HD					総ページ HE	

欧文概要 EZ

EPR (Extended Producer Responsibility) or Recycling Policy Means is adapted in many countries such as OECD. Its Policy Effect, however, is different from country to country.

In Germany and South Korea, the amount used, such as can and plastic products, becomes less instead of increasing of its amount used of the bottle and the paper product. In America and Japan, however, a disposable plastic, metallic aluminum, etc. are increasing rapidly. It could be seen by Policy Effect according to the difference of a Policy Means.

That is, the difference in each country in the policy effect of "an increase in loss in quantity of container packing waste, change of the items of container packing material, and the increasing rate of reuse and recycling" is based on the following five Policy Means. 1. Where (production, recovery, processing stage) is producer responsibility expanded?

- 2. With what responsibility are the persons concerned burdened?
- 3. Does design the object of recycling system in which source of discharge of waste (home discharge, an enterprise system, especially service and retail store discharge).
 - 4. What container packing material as the object of recycling is set.
- 5. How do combine the policy means such as a mandatory control means, an economical means, and autonomous contract? Based on the above setting the issues, this research estimated "loss in quantity of a container and packing waste" which is the efficiency of a policy means in the five above-mentioned policy means focusing on the loss-in-quantity effect between Japan, Germany and South Korean.

This research has shown that the policy means have to implement with other conditions such as political supports, civic consensus, many kinds of incentive of 3R in their market system as well